【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第１区分
【発行日】平成16年9月30日(2004.9.30)

【公開番号】特開2003-120396(P2003-120396A)
【公開日】平成15年4月23日(2003.4.23)
【出願番号】特願2001-315850(P2001-315850)
【国際特許分類第７版】
　Ｆ０２Ｄ　45/00
【ＦＩ】
　Ｆ０２Ｄ　45/00　　３４５Ｅ
　Ｆ０２Ｄ　45/00　　３０５Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成15年9月18日(2003.9.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３６】
さらに、スロットルバルブ５０の下流には吸気温センサ１００が配置され、吸入空気温度ＴＡに比例した信号を出力する。また、左右バンクの、サーモススタット（図示せず）を介して連続する冷却水通路（図示せず）には温度センサ１０２ａ，１０２ｂが１個ずつ配置されると共に、エキゾーストマニホルド７０の一方には温度センサ１０２ｃがもう１個配置され、エンジン温度（機関温度）ＴＯＨ（およびエンジン冷却水温ＴＷ）に比例した信号を出力する（温度センサ１０２ａ，１０２ｂ，１０２ｃは水温センサを兼ねる）。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５６】
この状態においては図６タイム・チャートに示すようにカウンタｃＴＯＨＡＳＯの値は０ではないことから、Ｓ２８の判断は否定されてＳ３０に進み、フラグＦ．ＮＡのビットが１にセットされているか否か判断する。このフラグは図示しないルーチンにおいて検出されたエンジン回転数ＮＥがアイドル回転数を超えると判断されるとき、そのビットが１にセットされることから、この処理は、エンジン回転数ＮＥがアイドル回転数（所定回転数）を超えるか否か判断することに相当する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５９】
次いでＳ３４に進み、前記したフラグＦ．ＴＯＨＳＯＰのビットを０にリセットし、Ｓ３６に進み、カウンタｃＴＯＨＡＳＯの値が零以下か否か判断し、肯定されるときはＳ３８に進んで０と置き換えると共に、否定されるときはＳ４０に進み、カウンタ値を１つデクリメントする。
【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６０】
次いでＳ４２に進み、同様にカウンタｃＴＯＨＢＳＯの値が零以下か否か判断し、肯定されるときはＳ４４に進んで０と置き換えると共に、否定されるときはＳ４６に進み、カウンタ値を１つデクリメントする。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６１】
上記は図６タイム・チャートに(1)で示す処理であるが、時間が経過するにつれ、同図に(2)で示すようにエンジン温度ＴＯＨが上昇すると、同図に(3)で示す如く、所定温度ＴＯＨＦＣＬからＤＴ（例えば５℃）を減算した差以上となる。ここで、所定温度ＴＯＨＦＣＬは同図の中段に示す如く、しきい値の１つであり、通常の運転状態におけるオーバーヒート検出用のしきい値である。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７３】
Ｓ２２で肯定されてカウンタｃＴＯＨＡＳＯの値が０に達したと判断されるときはＳ６０に進み、検出されたエンジン温度ＴＯＨが再設定温度ＴＲＥＴＲＹ（第２の所定温度）以下か否か判断する。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７９】
また、ＣＴＯＨＢＳＯ（ＫＴＯＨＢＳＯ）が、エンジン１６の温度ＴＯＨに応じて設定される如く構成したので、通常のオーバーヒート検出動作の復帰を暖機終了後に確実に合わせることができる。